

編集後記

平成 22 年度の第一巻であります 4 月号を皆様のもとにお届け致します。

4 月といえば、新年度がスタートし、新人の方は社会人として第一歩を踏み出し、希望に胸をふくらませていることでしょう。また、人事異動で部署が移動となった方は新たに気持ちを引き締めたいと思います。

4 月号から、当協会の雑誌「交流」の定番記事でありました「経済動向」及び「主要新聞記事要旨」の掲載を当協会のホームページ (<http://www.koryu.or.jp>) に移動しましたのでご注意下さるよう宜しくお願いいたします。なお、「主要新聞記事要旨」は当協会ホームページ内の「台湾月報」(経済関係) に統合しました。

これに伴い「交流」のページ数も減少しますが、いままでの経済記事中心から文化関係の記事等を今後増やしていきたいと考えております。台湾よりの招聘者(文化人、フェローシップ、高校生、大学院生等)及び日本から派遣した高校生、大学院生からの報告等を今後掲載することにより内容を充実させて参りますのでご期待下さい。

今年の 10 月に日台航空路の空港としてチャイナエアライン及びエバー航空が 8 年前まで使用していた日本側空港：羽田(東京国際空港)並びに 30 年前まで日本航空が使用していた台湾側空港：台北(松山空港)に日本及び台湾の航空会社 4 社が 1 日 8 便就航する運びになり、羽田空港においては京浜急行及び東京モノレールの新駅が開設され、今後日本と台湾の観光客及びビジネスマンにとっては、都心から空港までの移動時間の短縮並びに利便性の向上、台湾においてもやはり桃園から台北市内へ転換することに伴い移動時間の短縮等により益々多くの方々が利用することが見込まれ、日本と台湾とのより一層の交流が盛んになることが期待されております。

また、11 月から来年 4 月までの 6 ヶ月間にわたり台北において、アジア地区としては 7 回目となる国際花博覧会(2010 台北花卉博覧会)が開催されることになっており、世界的に台湾の花として有名な胡蝶蘭を始めとして環境にも配慮した花博覧会となる予定です。読者の皆様も是非首都圏から航空便の利用が便利となる台湾に是非機会があれば訪問されたいかがででしょうか。

((財) 交流協会 前日台交流センター室長 藤本 徳司)